

寺内地域包括

『地域包括支援センター』は、地域にお住まいの高齢者の皆様が安心して生活を続けていけますよう、『何でも』ご相談をお受けしている総合相談窓口です。ご本人からでも、ご近所の方のことで、離れて暮らすご両親のことでかまいません。「こんなことを聞いても大丈夫かしら?」なんて遠慮もありません。担当の包括は市町村の窓口からも問い合わせ出来ます。個人の秘密は守られますのでお気軽にご相談ください。



直通 ☎ 018-853-6300

寿光園居宅

事業所には現在3名の介護支援専門員が地域で暮らしているご利用者の悩みや相談事に応じ、自立生活ができる様に支援させて頂いております。生活環境・介護環境は一人ひとり異なりますが、そのような皆様一人ひとりに適したサービスプランを提供するよう心がけています。私達は、地域の皆様の個々の生活に関わらせてもらう中で、人生の勉強をさせて頂いていると感じております。そのような経験を積ませてもらった介護支援専門員が対応させて頂きますので、一人で悩まず不安を抱かず、一緒に考えますので、お気軽にお電話ください。

直通 ☎ 018-893-5761

ヘルパーステーション

『住み慣れたご自宅での日々の暮らしのお手伝いをいたします。』

居室の清掃・調理・洗濯・買い物などの日常生活上の必要なサービスや、入浴介助・外出介助（通院）をおこなっております。

丁寧な介護支援サービスで安心感を持っていただけるように、また、ヘルパーの訪問を楽しみにしていただけられるように、これからも信頼されるヘルパーステーションを目指して参ります。



TEL 018-880-1050

ショートステイ

ご利用者の心身の状況や、ご家族の精神的・身体的な介護負担の軽減を図る為、短期間施設利用し、日常生活上の支援や機能訓練等を職員が行っております。『急に身体を動かす事ができず、自宅で過ごす事が難しくなった』『在宅介護をしているが、時々休む時間がほしい』『冠婚葬祭等で一時的に自宅で介護をする事が難しい』等、ご利用者、ご家族のさまざまなご要望に応じ、ショートステイを利用される事で、在宅生活を継続出来るようサービスさせて頂きます。

TEL 018-880-1050

寄贈の紹介

- 秋田県社会福祉協議会様 リクライニング車椅子1台
- 秋田県遊技業協同組合様 車椅子2台
- 株式会社セスタ様 ベッドサイドレール2本



ご寄贈いただき
ありがとうございました。

編集後記

新型コロナ感染拡大に伴い長期間に及ぶ面会制限を行っており、ご家族様や地域の皆様にはご迷惑をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。ご利用者様の安心・安全を第一に考え、職員一丸となって感染症対策を引き続き徹底しているところでございます。コロナ禍となり3度目の春。雪が溶け始め、桜の蕾も慌ただしく開花の準備を始めました。少しずつではありますが、待ち望んでいた春が近づいていることを実感する毎日です。満開の桜にも負けないほどの笑顔でご利用者様が過ごしていけるよう、私たち職員も笑顔で接し、ご利用者様一人ひとりに寄り添って参りたいと思っております。



社会福祉法人秋田県厚生協会 <http://www.akitaken-kouseikyokai.jp/>



寿光園の 屋根の下

第142号
令和4年3月
発行元
清水寿光園

20年目の春に想うこと...

清水寿光園 相談員主任 佐藤 詩乃

日頃より、当施設の運営におきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。また、新型コロナウイルスの感染状況がなかなか落ち着かず、面会制限等大変申し訳なく思っております。コロナ禍以前であれば、自由にご面会に来ていただき、ご自宅で生活していた頃の話をゆつくりとお伺いし、支援に活かす事が出来ていまして、なかなかそのような機会も少なくなり、早く以前のような生活に戻る事ができるよう願うばかりです。

この度、寿光園の屋根の下を発行するにあたり、指名を受け表紙文を書かせていただく事となりました。この春、超高齢社会は未だ先の事と思っておりますが2025年問題まであと3年と32.3人。この数字は当施設で10年間の年間平均退所数です。年間約30名近い方の最後の時間を支援させていただき、本当にありがたい仕事であると感じております。看取り介護について振り返りを行う際によく聞かれるのが、「もつと何かできたのでは...?」と「思ってしまう」といった話です。旅立たれた方からの声を聴く事もできず、答え合わせができないまま、これが良かったのか...と考えるようになってしまったのではないかと感じています。しかし、看取り期だから何か支援を...といった事はなく、今まで生きてこられた過程を受け入れ、その方にとって必要な支援の足し算と引き算を

繰り返す、やがて加齢と共に訪れる旅立ちの時まで、精一杯試行錯誤しながら多職種と連携し支援させていただく中で、旅立たれた方が「良かったな」と思っていたらいいな、日々の支援の連続が大切ではないかと感じています。

団塊の世代が75歳となる2025年以降、後期高齢者が4人に1人となる社会が到来、2040年には死亡者数が約168万人になると言われています。このように加速する超高齢社会では、「どのように人々の暮らしを支援するべきか」という問いをサポードする必要がある。支援体制が今以上に求められています。高齢者の方々が住み慣れた地域で生活を続けるために、医療介護の充実を図っていく中で、介護施設の看取り支援が必要になってきます。

樹木希林さんの言葉、「死ぬときぐらい好きにさせてよ」。2016年の宝島社の企業広告で当時新聞の2面に掲載されました。「生きるのも日常、死んでいくのも日常」。死は特別なものとして捉えられているが、死というのは悪いことではない。「いかに長く生きるか」ばかりが目される日本において、「いかに死ぬか」、なかなか考えつかない発想です。

いかにその方らしく生活を続けられ、人生の最後の時をご満足いただけるかが、その方の最後の時間を実りある充実したものにするには...と思

2東

2東フロアでは32名の利用者が生活されており、レクリエーションや軽作業を行いながら、日々の生活に楽しみを感じて頂けるよう努めています。また、曲に合わせて手足を動かす軽体操や合唱、編み物や習字等、利用者様個々の嗜好に合わせた活動も行ってあります。新型コロナウイルスの影響により外出等が出来ない中でも気分転換を図って頂けるよう、ベランダから桜を觀賞するなど、季節ごとの気温や香りを感じて頂くことで会話や笑顔に繋がっております。フロアの恒例行事としては、利用者様のお誕生日に一年に一度主役になって頂けるよう、職員がバースデイソングを歌いお祝いをしてあります。今後も笑顔あふれるフロアづくりを目指して参ります。



1東

1東フロアは32名のご利用者が生活されております。天気の良い日には感染対策を十分にした上で庭園を散歩して頂くこともありました。毎日の日課として軽作業のエプロンたたみを、談笑されながら行って頂いております。今年度の行事として、秋祭りでは鬼や桃太郎に仮装した職員がフロア内を歩き周り、節分の時期では利用者も参加する餅つきが行われるなど、季節に合わせた行事を企画し利用者の皆様の生活の中に笑顔をお届けできるよう実施してきました。これからも、ご利用者様が安心して過ごしていただけるよう支援して参りたいと思います。



特 養

令和3年度 各フロアの取り組み

介護の取組

新型コロナウイルスの猛威により、私たちの生活は一変しました。何をすることも制限が課せられ、今まで当たり前に来ていたことが難しくなりました。目に見えないウイルスとの戦いが今も続いています。どれだけ我慢すれば以前のような生活に戻れるのか、自由な生活を取り戻せるのか、残念ながら終わりが見えません。

特に今年度は季節の行事も中止や延期、規模縮小を余儀なくされました。外部との触れ合いや季節を肌で感じる機会も少なく、いつの間にか1年が過ぎてしまったように感じます。そんな中でも初の試みとして、比較的に感染状況が落ち着いていた時期に園内で秋祭りを開催しました。金魚すくいやくじ引き、綿あめ、職員による仮装大会などを実施し、ご利用者様にも予想以上に好評でした。金魚すくいでは、上手に何匹もすくう方や、すばしっこい金魚に戸惑う方、黙々とすくい続ける方もおり、いつもとは違った一面を見ることができました。その後、金魚はしばらくの間、私たちの心を癒やしてくれました。

この2年間に新たに入所されたご家族様は玄関先での面会のみで、施設内・居室に入られたことがない方がほとんどだと思います。面会制限もあり、自由に会えない状況も続いているため、施設内でどのように過ごしているのか心配されている方もいらっしゃるかと思います。

少しでも様子を知っていただきたく、近況や写真を添えて毎月お便りにてお知らせさせていただいております。さて、今年度も介護員の技術と質の向上、介護力を高めるべくフロア毎に勉強会を開催しました。各フロアで毎月テーマを決め、自分たちで資料を準備し、企画、司会、記録と役割分担をしながら進めています。テーマは様々に「接遇」「ポジショニング」「介護保険」など、自分たちが知りたいことや足りない知識を得るため、内容はフロアによって異なります。

また、今年度は新たに4つのフロア合同で行う合同勉強会も始めました。コロナ禍により思うようには進まず、参加者も少なかったのですが、いつもとは違うメンバーと集まるなかで新たな気づきや発見もあったのではないかと思います。介護員の経験年数や個々の力は異なりますが、ご利用者様には統一したサービスが提供できるよう、チームワークを大切にし、個々の意識を高めていきたいと思っております。

ご利用者様の生活は介護員だけでは成り立ちません。看護、栄養、相談員等、全ての職種の協力があってこそ成立します。縁あって高清水寿光園に入所していただいたので、お一人おひとりの要望に応えられるように職員一丸となってより良いサービスを提供できるように努力してまいります。



2北

2北フロアは28名のご利用者が生活しております。毎日の日課としてエプロンたたみを実施、余暇時間は風船バレーを楽しませております。毎月の誕生会や季節行事の年末のお楽しみ会、餅つき等行いご利用者のたくさんの笑顔が見られました。コロナ禍で面会が思うように出来ませんが、これからもご利用者のたくさんの笑顔が見られ、安心して過ごして頂けるよう支援して参ります。

1階北棟は特養とショートステイの利用者が生活しているフロアです。利用者個々の生活スタイルを持ち、家族・友人へ手紙を書いている利用者、音楽鑑賞や毎日のエプロンたたみ等の軽作業を行う利用者もおります。時折、少人数で行うラジオ体操には生き生きとした表情もみられております。歌が好きな利用者は施設内行事のカラオケ大会に出場し、見事最優秀賞を獲得し、賞状・メダル・記念品を受け取り嬉しそうな表情をみせてくれました。利用者・職員ともにパワフルな方ばかりで毎日活気に満ち溢れております。



1北



※掲載している写真はご本人、ご家族のご了承をいただいております